

## タイトル： パンデミックを生きる（3）

私が新型コロナウイルス問題で最も信頼している「東大先端科学技術研究センターの児玉先生」がついに国会で涙の訴えをされ、ユーチューブで拝見させていただきました。まさに、しびれる演説でした。いつもの穏やかな声ではなく、朗々と大きな滑舌のよいご説明で、聞いていて感動、私の目にも涙がにじみました。これで政治が動かないのなら、吾々は諦めるしかありません。いや、方法あるはずですがここではやめておきましょう（笑）

一方、スペインや韓国の抗体検査結果を見ていると、この新型コロナは感染後、抗体獲得率が低いか、あるいはできても3か月ほどで抗体が消えてしまうのか？と思わせる傾向が出ています。ここは非常に複雑怪奇なところですよ。そうだとすると、ワクチンがもし開発されたとしても自己産生の「抗体」より長持ちする可能性は少ないので、ワクチンの効果はせいぜい3か月に満たない可能性もあります。現在、真夏の真只中で感染例が急増しているように、このウィルスは「季節」を選ばないことが明白です。そうになると、インフルエンザのようにワクチンを打つ時期を推奨するタイミングも計れないかもしれないのです。まさに、With CORONA の生活を創っていくしかなく、妙に new normal などのカタカナ言葉で気取っている場合ではありませんね。哲学、社会学、人類学、経済学、医学を結集して人類が築いてきた、「文明」と「文化」を守らねばなりません。

ところで、いまの出生率が続くと今世紀末には人類は半減するとも言われています。旺盛だったアフリカなどの人口急増もコロナによって一変し、半分どころか3分の1くらいに減少する可能性もあります。人類が減少するということは、経済もシュリンクするということですから「パイ」を分ける人数が減ることによって一人ひとりが豊かになるかということ、そうではないでしょう。成長できなくなった低生産性経済の中で、過去のどのレベルの生産性に戻るのか？その時、デジタル文明はどのような姿になっているのでしょうか？問題であったシンギュラリティは、シュリンクした人類の行く手に本当に来るのでしょうか？人類とAIが仕事を奪い合う闘いが起きるのでしょうか？その前に、人類はコロナによってパイを失い、参加するゲームプレイヤーの数さえ減ってしまっており、AIにとっては闘う相手がいない、ましてAIはそこまでの成長が人類の成長無しにできるのでしょうか？

先日、シベリアの気温が8万年ぶりに38℃を記録しました！8万年ぶりという数字には、ぞっとします。これが茶飯事となると、永久凍土が解凍し始め、地下に封印されていたメタンガスが噴き出すことになるそうです。まさに8万年前のメタンガスです。これが起きたら、もう、おそらく、何の手の打ちようもないでしょう！！CO2を削減する、というような目標もはかない記憶として、人類の歴史と共に消えてゆくのです。2億年の繁栄を誇った恐竜が、一発の隕石により引き起こされた氷河期の来襲で絶滅したように、です。メタンガスの雲に覆われた地球はいったい何度まで上がるのでしょうか？想像もつきません。現生人類がネアンデルタール人やデニソワ人と袂を分かったのは3万年前です。8万年ぶり・・・人類史の時期を凌駕する大変動が地球に起きようとしているのです。今、シベリア永久凍土を守るために急速にCo2を減らすにはコロナが教えてくれた「Don't move」あるいは「フリーズ」という暗号を真剣に受け取らなければならないでしょう。新型コロナのパンデミックは、人類に重要なメッセージを

送ってきたと思うのです!!!そのために人類はかろうじて、デジタル機器により地球上くまなく繋がることのできる事を実験させられました。これは、まさに黙示録の選択に違いありませんね。

今日デジタル毎日に、パリ在住の辻仁成さんの素敵なことばが載っていました。パリの厳しいステイホームにあって外に出たがる息子さんに「僕たちは、火星に行く宇宙船に乗っているんだよ。火星に着くまで毎日同じ事だけど、ちゃんと朝ごはんを食べて、運動して、本を読んで、よく眠って、火星に着くまで頑張ろう」(記憶で書いているので、正確ではありません)なるほどです。

私ならこう思う。「僕らは、太陽の周りを100億回廻るマラソンをしているんだよ。今ちょうど半分くらい回ったんだ。ずっと同じクルーじゃられないから、いろんな生命、いろんな生物にバトンタッチするんだよ、あと半分頑張ろう！」

太陽系の寿命は、ほぼ100億年であるといえます。吾々は、ほぼ半分のところを生きています。現生の人類にバトンが渡ってからは、たったの3万年です。私たちは、必ず知恵と経験と勇気を総合させて今日を明日に繋げることができるはずです。

2020年7月23日(木)